

2.6.6 研究分野：国際農村発展論

構成員：	教授	福井清一
	准教授	浅見淳之
	助教	中田義昭
	大学院博士後期課程	7 名
	大学院修士課程	4 名
	専攻 4 回生	6 名

A. 研究活動（2009.4～2010.3）

A-1. 研究概要

a) 開発途上国の農村・農林業部門の発展諸問題の研究

発展途上諸国の農村・農林業部門における、農家・農村経済問題、貧困問題、飢餓問題、農業技術、農村金融・投資、流通問題、組織問題、農林生産物需給、貿易・政策問題、人口爆発、草地・水・森林・水産資源などの資源枯渇・環境問題、経済発展による伝統社会の変容問題、ODA と NGO を含む農林水産業協力・援助の実態と問題を、新古典派経済学を基礎としながら、その応用である農業経済学、農業経営学、農業政策学、農業発展論、経済発展論、国際経済学、環境経済学、さらには計量経済学などの経済学的方法と、臨地調査の方法により研究し、それら研究と関連させて、大学院・学部の教育を行っている。

b) 開発問題の新制度経済学的な研究

新制度経済学、新古典派経済学を基礎としながら、臨地調査ならびに計量経済学の方法、特に一次データや統計の個票による農家のミクロデータの分析に基づき、中国、東南アジア、中東、サブサハラアフリカを対象に、その農村・農家経済を形作っている諸制度、市場、組織の諸問題とそれらの関係構造を、歴史、社会、文化、政治、法律制度まで含めて研究し、この研究と関連させて、大学院と学部の教育を行っている。

c) 具体的研究 1) ハイブリッド型貧困削減戦略に関する行動経済学的研究

貧困削減を目的とした農村開発政策の効率化が課題となっている一方で、現実の途上国では、インフォーマルな制度や慣行をとおして貧困緩和が実現されている事例が数多く観察されている。そこでは、公平性、互酬性、信頼などの諸要素が相互扶助的行動を引き起こし、それが貧困緩和に貢献していると考えられている。途上国における開発行政の脆弱性を考慮すると、これらの内発的な制度・慣行の利点を生かした新

しい戦略を考案することが有効であると考えられる。当分野では、このような制度・慣行の貧困緩和メカニズムを解明するために、実験ゲームやネットワーク理論に基づく実証研究の方法を取り入れ、公平性、利他性、互酬性などの性向、信頼による社会関係資本の蓄積の程度が、いかにして、相互扶助的行動を生み出すのかについての調査研究を行っている。

d) 具体的研究 2) 中国農村における制度システムの人治から法治への移行

中国農村の市場システムは、慣習経済による「人治」と法制度による「法治」という対立的な制度システムの上に運営されている。そこで第一に、農村での市場取引制度を規定する、法律の完備性を、規範的、実証的に明らかにし、第二に、依然として用いられている「人治」と比較する枠組みで、「人治」から「法治」への移行過程の効率性と公平性を実証的に明らかにしようとしている。農村での農家面接調査を行い農村、農民レベルでの法制度の執行状態、慣習経済、農家経済に関する一次データを収集し、これに基づき、法律、経済、社会といった極めて学際的な領域を、新制度派経済学、特に「法と経済学」による方法の枠組みをもとに分析を行っている。

A-2. 研究業績（国内・国外含む）

a) 成果刊行

著 書

- ・ 1. Fukui S. " Land Tenancy Market and Determinants of Contract Form," in Iwamoto N. and Hartono (eds.), Economic Structure and Social Institutions in Rural Java: A Case Study in Yogyakarta, 2009, I-1-2, Gadjah Mada University Press.
- ・ 2. Fukui S. " Agriculture and Household Economy," in Iwamoto N. and Hartono (eds.), Economic Structure and Social Institutions in Rural Java: A Case Study in Yogyakarta, 2009, I-1-5, Gadjah Mada University Press.
- ・ 3. Fukui S. " Efficiency of Share Tenancy and Cost-sharing Rules," in Iwamoto N. and Hartono (eds.), Economic Structure and Social Institutions in Rural Java: A Case Study in Yogyakarta, II-4, 2009, Gadjah Mada University Press.

原著論文（査読付）

- ・ 1. Miwa, K., Fukui, S., and Han P. " Does Child Labour Have a Negative Impact on Child Education and Health? A Case Study in Rural Cambodia" , Oxford Development Studies, forthcoming. (査読有)
- ・ 2. 永井俊輔、福井清一「分益小作の生産効率と地主・小作関係—中部ジャワ農村の事例より—」『2009 年度・農業経済研究別冊』2009 年 12 月、507-514 頁。(査読有)

- ・ 3. 浅見淳之「中国農村のインフォーマルな社会制度に埋め込まれた経済取引」『農業経済研究』第 80 巻第 4 号、2009 年、174～184 頁. (査読有)
- ・ 4. 永井俊輔、福井清一、高篠仁奈「ジャワにおける小作契約携帯の決定因について―内生性バイアスを考慮に入れた実証分析」『国際協力論集』第 17 巻第 1 号、2009 年 7 月、101－114 頁。(査読なし)
- ・ 5. 高篠仁奈、福井清一、ジャンクン・ハンドヨ・ムリョ「分益小作論における期待効用仮説の妥当性について―実験ゲームによる検証」『国民経済雑誌』第 199 巻 4 号、2009 年 4 月刊。(査読なし)
- ・ 6. 浅見淳之「中国の農業構造問題と農地制度のゆくえ」『農業と経済』6 月号、2009 年、68～72 頁. (査読なし)

報告書等

- ・ 1. 浅見淳之「戦前期農家経済統計の簿記様式の変遷について」佐藤正広編『農家経済調査の資料論的研究―斎藤萬吉調査から大槻改正まで（1880-1940 年代）』、一橋大学経済研究所、2009 年、1～44 頁.

b) 学会発表

- ・ 福井清一、日本農業経済学会、2 回
- ・ 福井清一、国際開発学会、1 回

A-3. 国内における学会活動など

所属学会等（役割）

- ・ 福井清一：地域農林経済学会、企画担当常任理事
- ・ 浅見淳之：日本農業経済学会、「農業経済研究」編集委員

競争的資金等獲得状況

①科学研究費補助金

- ・ 基盤研究（A）：福井清一：アジア地域におけるハイブリッド型貧困削減戦略に関する行動経済学的研究
- ・ 基盤研究（C）：浅見淳之：中国農村における制度システムの人治から法治への移行―法と経済学の視点から―
- ・ 基盤研究（A）：北村行伸：「戦前期農家経済の実証分析：パネルデータ化の試み」

②その他の競争的資金

- ・ 平和中島財団アジア地域絨毯学術研究助成：福井清一：インドネシア・カンボジアにおけるインフォーマル保険制度に関する比較制度論的研究

・農林水産政策研究科学研究委託事業：加賀爪優：日系食品関連企業の海外進出が日本農業におよぼす影響に関する研究

A-4. 国際交流・海外活動

国際共同研究・海外学術調査等

- ・「インドネシアにおける分益小作制度の経済学的研究」、研究代表者：福井清一、ガジャマダ大学農学部
- ・「カンボジアにおけるインフォーマル・リスクシェアリングと社会的ネットワークに関する研究」、研究代表者：福井清一、OXFAM、Cambodia
- ・「インドにおけるカースト制度と社会的ネットワークの研究」、研究代表者：福井清一、RBC, College, West Bengal, India
- ・「中国農村部における農地流動化の実態」、研究代表者：浅見淳之、中南大学

B. 教育活動（2009.4～2010.3）

B-1. 学内活動

a) 開講授業科目（担当教員）

- ・学部： 福井清一「食料環境経済学概論」、「国際農村発展論」、福井清一・浅見淳之・中田義昭「国際農村発展論演習Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ」、浅見淳之「農業発展論」、「食料環境基礎社会・経済論」
- ・大学院： 福井清一「国際農村発展論Ⅰ，Ⅱ」、福井清一・浅見淳之・中田義昭「国際農村発展論演習Ⅰ，Ⅱ」、浅見淳之「国際農林協力論」

B-2. 学外における教育活動

学外非常勤講師

- ・福井清一：甲南大学、経済学部
- ・浅見淳之：一橋大学経済研究所

B-3. 国際的教育活動

留学生・外国人研修員の受入

- ・留学生： 修士課程 1名（中国） 博士課程 4名（中国 2、カンボジア 1、ラオス 1）

C. その他

- ・ 福井清一：文部科学省、高等教育局大学設置・学校法人審議会専門委員、日本学術振興会科学研究費委員会専門委員
- ・ 浅見淳之：日本学術振興会特別研究員等審査会専門委員